



令和7年
9月15日
第80号

発行
内外政治
研究 G
代表 宮田修一

悠仁親王殿下の成年式を寿ぐ



悠仁親王殿下は成年式の諸行事を滞りなくお務めになりました。多くの国民が、古式ゆかしき儀式をおして、青年皇族として立派にお育ちになった殿下の初々しくも凛々しいお姿に、心から慶びの気持ちを抱き、そしてどこか安堵の思いを抱いたことでしょう。

19歳のお誕生日でもあった「加冠の儀」当日の9月6日、殿下は、天皇陛下から差し向けられた御料車に「親王旗」を掲げ、お住まいの赤坂御用地から皇居まで往復されました。沿道では、多くの人々が「悠仁親王殿下 おめでとう」とお祝いしました。伊勢



昭和天皇の御陵がある東京・八王子市の武蔵野陵墓地前で奉迎する市民

神宮や神武天皇陵、そして昭和天皇陵などをお参拝された際にも、殿下はお車の窓を開けて沿道のお迎の人々に、にこやかに応えられました。

お祝いの「集い」に五百人

「男系継承を変えること絶対にあってはならない」

「悠仁親王殿下の成年式・加冠の儀をお祝いする集い」が11日、東京・永田町の参議院会館講堂で行なわれました。「皇室の伝統を守る国民の会」の山東昭子会長などが呼びかけ、与野党の7党の衆参国会議員75人、議員会館内の第二会場の参加者を合わせて合計500人が参加しました。



野党代表「立法府の総意まとめられず申し訳ない」

各界からは作曲家で文化庁長官の都倉俊一氏、殿下が学んでおられる筑波大学の永田恭介学長、ジャーナリストの櫻井よしこ氏、日本会議会長の谷口智彦氏が祝辞を述べました。

谷口氏は「実に百二十数代に及ぶ皇統の流れ、その絶ゆることのない連続こそは、世界中、日本のほか、どのどんな国にもない、私たちだけが恵まれている大切な宝物であります。ご先祖様の営々たる努力によって男系で今日まで至ります。この大切な伝統を私たちので変えさせてしまうなどということは絶対にあってはなりません」と

続けて、自民党の麻生太郎元首相は「殿下が皇位を継承される時にも、お支えする皇族がいらないようにしていかねばならない。今後とも全力を尽くしてまいらる」。立憲の重徳和彦前政調会長は、「2600年を超える長き皇室の伝統を十分に重んじる立場から皇位の安定的な継承を確保する方策を検討すべき」と述べました。

また、維新の藤田文武共同代表（代読）は「何よりも旧宮家の男系の子孫を皇族の養子としてお

迎える方策については、是非とも進めていかねばならない」。国民の玉木雄一郎代表は「（皇位の継承について）立法府としての総意をまとめることができていないことに大変申し訳なく思っている。男系男子で継承されてきた流れを決して揺るがせにせず、未来へと引き継いでいかなければならない」と述べました。公明、参政、日本保守の代表からも同じ趣旨の祝辞が続きました。

悠仁親王殿下の成年式・加冠の儀をお祝いする集い
皇室の伝統を守る国民の会



「石破見解」なげうらなう

石破茂首相が9月7日に自民党総裁の辞任を表明しました。翌日に総裁選前倒しが決まる情勢を受け、事実上の「解任」を恐れた末の判断であることは明らかです。

10月4日に次の総裁が決まりますが、この期に及んで、戦後80年の「見解」に意欲を示しています。

安倍元首相への対抗心がそうさせるのか、独りよがりの歴史観で「70年談話」を上書きすることなど許されません。